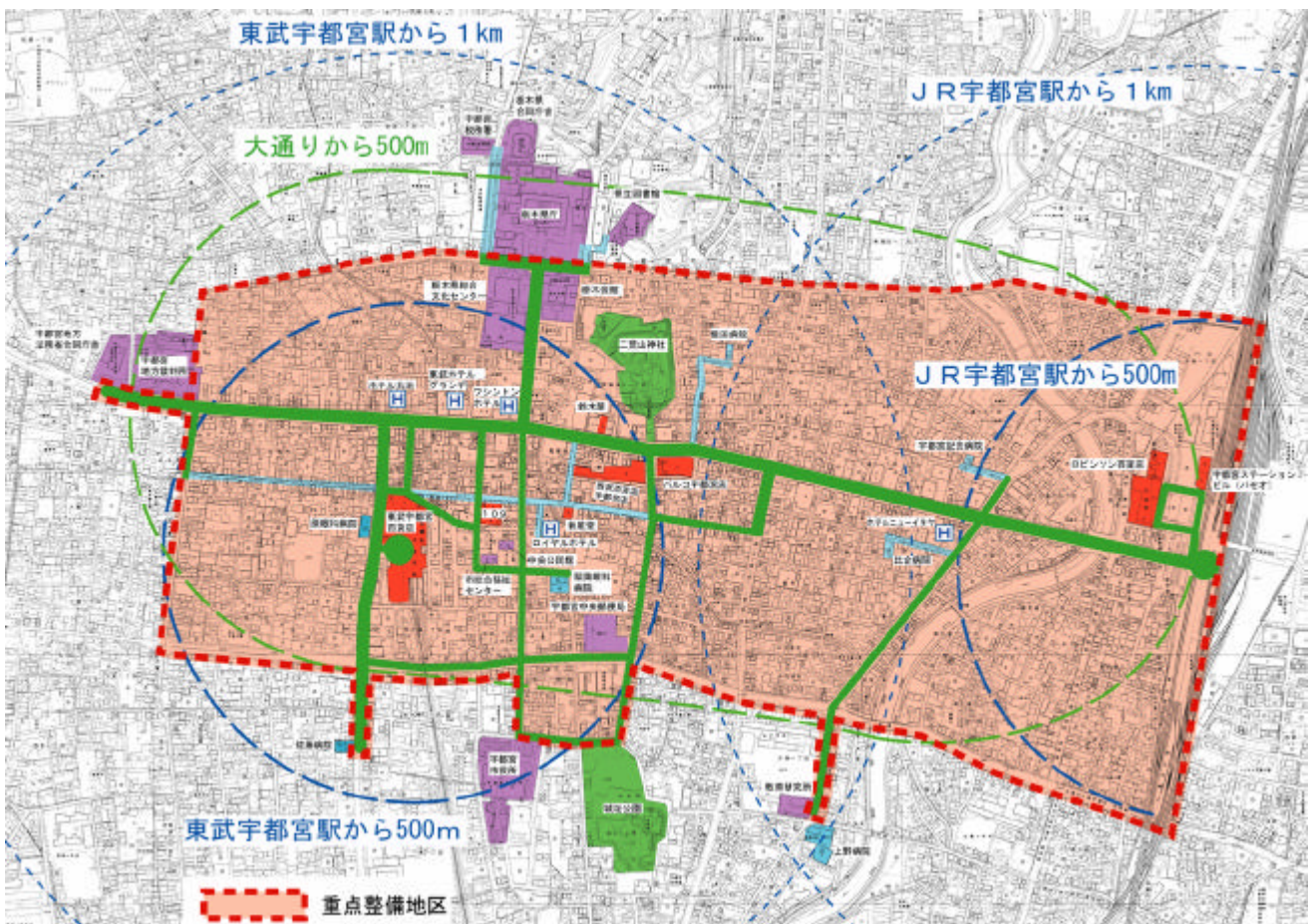


(6) 重点整備地区の位置及び区域

重点整備地区は、都心環状線内を基本として、面的なバリアフリー化を促進する約180haの地区としました。

- ・ 交通バリアフリー法では、バリアフリー化を促進する地区（重点整備地区）は、駅舎（特定旅客施設）より徒歩圏内で、高齢者や身体障害者などが日常生活や社会生活において利用する官公庁施設や福祉施設その他の施設を含み、面的にバリアフリー化を促進していく地区とされています。
- ・ 本基本構想では、基本的な徒歩圏を500mとしており、JR宇都宮駅と東武宇都宮駅、大通りより500mの圏域は、都心環状線内の地区が概ね一致します。
- ・ また、都心環状線内の地区は、安心して快適な都心空間の創出を図ることを目標としていることから、バリアフリー化を促進する地区（重点整備地区）は同環状線内を基本とし、約180haを重点整備地区として設定しました。
- ・ 重点整備地区は、都心商業機能の向上、違法駐車や自転車放置の抑制などの施策を同時に展開していくことも必要であり、中心市街地活性化基本計画の区域、違法駐車防止重点地域、自転車放置禁止・規制区域などとの統合も図っています。

重点整備地区の設定（約180ha）



)「重点整備地区」は、用語の説明(P49)を参照。